

## TAKE ACTION～企業とNGOの連携の可能性を探る 報告書

政策・メディア研究科 修士1年 山田貴子

yamako@sfc.keio.ac.jp

### 1. 目的

フィリピンには10万以上のNGOが存在し、日本や各国からの巨額のODAが投下されているにも関わらず、フィリピンの貧困率はこの10年間で0.1%しか減少していない。また、フィリピンセブには450のNGOが存在するが(“Be”)、NGO/企業/財団が連携し地域として問題に取り組む(“Do”)積極的な姿勢、有効なモデルが見られない。そこで、NGO/企業/財団が連携し地域の問題を共に解決する(BeからDoへ)モデルを共に構築することを目的とする。

### 2. 活動内容

#### 2-1. FW 日程

2010年04月23日～05月12日 場所：フィリピン セブ市

シンポジウム開催日：2010年05月07日

PUBLIC/PRIVATE SECTORS AND NGOS -WORKING TOGETHER TOWARDS SHAPING A BETTER SOCIETY IN CEBU!

#### 2-2. シンポジウムプログラム

I. Prayer

II. Welcome Address

III. Rationale

IV. Sharing of Mission/Vision and Programs (5つの組織によるプレゼン)

-RAFI/Share A Child/FORGE/Children of Asia/WWOTS

V. Discussion/Open Forum(オープンフォーラム)

VI. Giving of Token

VIII. Closing Remarks

#### 2-3. オープンフォーラムでの議論内容

- 職業訓練センターを通じて、NGO、財団、企業の各機関へのインセンティブ設計が可能になり、コミュニティとして地域の問題を解決するモデルが確立できるのではないか。
- いくつかのNGOで実践できている優良な教育内容や職業訓練のプログラムなどが共有できていないという課題に対し、NGOの情報収集/それぞれの機能のネットワーク化を実施することにより、機能の共有や機能の補完を通してより有効的なNGOの機能向上が果たせるのではないか。
- 現地企業が今まで行っていたCSRとしての取り組みをプロフェッショナルボランティアとして訓練センターへ社員を派遣することで、企業自身がCSRを利用し、有能な学生を採用すること

ができ、自社の“利益”に直接結びつけることが可能になり、今まで難しかった NGO との協働が可能になるのではないかと。

## 2-4. シンポジウムでの収穫

本シンポジウム開催にあたり、現地で参加団体と MTG を重ねていく中で、それぞれの NGO が本シンポジウムを通して、他の団体の活動内容や有効的なプログラムを知り組織のプログラムに反映したいと考えていることがわかった。また、NGO が抱える問題として、子どもが NGO の支援から自立できないために新しい子どもを保護できない、子どもに自立するための「職」と「スキル」がないという 2 点 であることも再確認できた。そういった現場での声を今回のシンポジウムのプログラムに反映したことで、参加者の方々からは、「本シンポジウムをきっかけに実際に共に動きだせるモデルを作っていけたらと思う」「職業訓練センターを通じて NGO と企業が共に活動していくことはとても現実的であり、今後必要なモデルになっていくのではないかと」という声をいただくことができた。このシンポジウム後の滞在では、実際に現地にある職業訓練センターとのコラボレーションができるのではないかなど現地 NGO と共に視察を行った。本シンポジウムが Be であったコミュニティを Do にするきっかけ、今後続く大切な場になったと確信している。だが、一方で、フィリピンと日本の考え方の違いも痛感した。フィリピン人の時間に対する考え方、そして逆算するという習慣がないことから、職業訓練センターを通じた NGO と企業の連携の全体像をイメージし、そこから今行わなくてはいけないことを逆算し話し合っていくという習慣がないということがわかった。今後はいかにフィリピンの文化、習慣の中でどう効率的に話し合いアクションにつなげていくかという点が課題になると感じている。

## 3. 今後への期待

フィリピンの貧困問題に取り組む NGO、そして現地企業の CSR への積極的な参加姿勢が見られるなかで、現状の課題を分析し、各機関へのインセンティブ設計を行い、今回のシンポジウムで話題になった NGO と企業が協働するための「職業訓練センター」のモデルを構築することは、フィリピン全土にある 10 万以上の NGO、そして現地企業が各地域で協働していく (BE から DO への変革) 際の有効なモデルになることが期待できる。今後も引き続き、内在的他者として現地フィリピン社会に介入することで、本研究を続けていきたい。



パネリストの方々と学生スタッフの方々と共に♪

---

本シンポジウム「PUBLIC/PRIVATE SECTORS AND NGOS -WORKING TOGETHER TOWARDS SHAPING A BETTER SOCIETY IN CEBU!」は、2010 年度湘南藤沢学会「シンポジウム・研究ネットワークミーティング基金」のもと行われた。